

# W杯サッカーボールの歴史

1960年代、黒塗りの五角形の革12枚と、白塗りの六角形の革20枚で構成された現在のようないくつかの切頂二十面体のボールが登場し、70年代のW杯からそれが採用された。 ※下記の最初の単語はボールの名前です。

 <p>1970年のメキシコ、1974年西ドイツW杯で使用された。</p>	<p>タンゴ。この大会は開催国であるアルゼンチンが延長戦の末、初めてW杯を制覇した大会。</p>	 <p>1978年のアルゼンチンW杯で使用された。</p>
<p>テルスターとテルスター・デウラスト。アディダスにとって初めてW杯に採用された試合球。</p>	 <p>1982年のスペインW杯で使用された。</p>	<p>タンゴ・エスパニーヤ。大会中、一度は認定された得点の取り消しという事態が起きた。</p>
 <p>1986年のメキシコW杯で使用された。</p>	<p>アステカ。従来の天然皮革製とは異なり、W杯で最初の人工皮革製の試合球であった。</p>	 <p>1990年のイタリアW杯で使用された。</p>
<p>クエストラ。前大会でのゴールの小ささから、性能的に得点の入りやすいボールが開発された。</p>	 <p>1994年のアメリカ合衆国W杯で使用された。</p>	<p>エトルスコ・ユニコ。カメルーンがアフリカ勢として初めて準々決勝に進んだ。</p>
 <p>1998年のフランスW杯で使用された。</p>	<p>フィーバーノヴァ。アジアで行われた初のW杯。初めは日本の単独開催も考えられていた。</p>	 <p>2002年の日韓W杯で使用された。</p>
<p>トリコロール。20世紀最後のW杯はフランスの優勝で幕をとじた。</p>	 <p>2006年のドイツW杯で使用された。</p>	<p>チームガイスト。Gaistはドイツ語で精神。精神は英語でspirit。つまり、チームスピリットを表すボールである。</p>
 <p>2010年の南アフリカW杯で使用された。</p>	<p>ジャブラニ。南アフリカの公用語のひとつズールー語で「祝う」「祝杯」という意味である。</p>	 <p>2014年ブラジルW杯で使用された。名前は「ブラズーカ」</p>

大学サッカーリーグでは全日本サッカー連盟(JUFA)公認の唯一の公式球、ミカサのMC5-WBLが採用されている。特殊配合のNRブラダーという材料が使われていて、良く弾み、芝のフィールドで最適のリバウンドを得ることができる。

